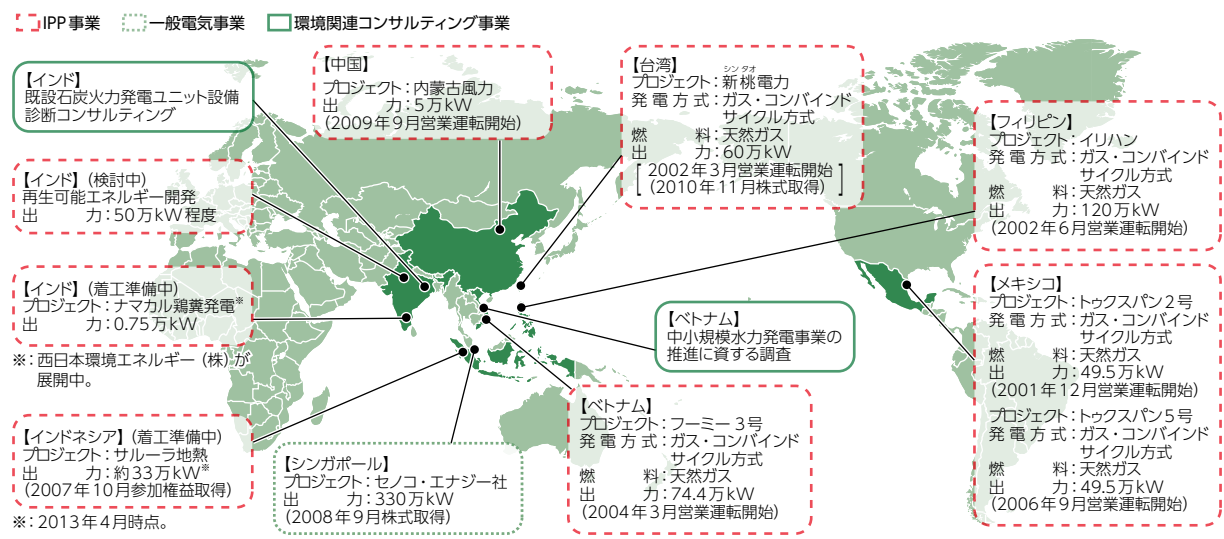


## (2) コンサルティング事業の展開

当社は、国内の電気事業を通じて蓄積した技術・ノウハウを活用し、発送電・変電・配電技術、環境・省エネ、人材育成に関するコンサルティング事業を通じて、アジアを中心に、電力の安定供給や電力関係技術者の養成などに貢献しています。

ベトナムでは、(株)みずほコーポレート銀行(現在の(株)みずほ銀行)と共同で、2012年6月から2013年3月までベトナム中小規模水力発電事業の推進に資する調査を実施しました。この調査は、経済産業省の公募事業「平成24年度 地球温暖化対策技術普及等推進事業」として採択されたもので、当社は保有する水力発電技術を用いて、技術的な評価や事業計画を立案し、水力発電推進のための政策、事業スキームを提言としてとりまとめました。

### 海外での事業展開(2012年度)

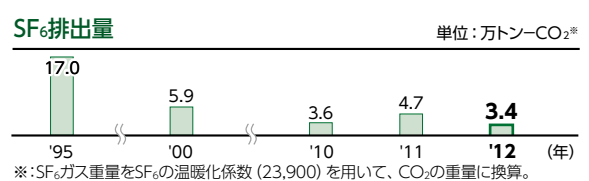


## 7 CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出抑制

温室効果ガスの排出は、発電時に発生するCO<sub>2</sub>が99%以上を占めますが、その他事業活動に伴って発生するN<sub>2</sub>Oなどの温室効果ガスについても排出抑制に努めています。

### ● 六フッ化硫黄 (SF<sub>6</sub>)

SF<sub>6</sub>は絶縁性に優れているため電力機器の一部に使用していますが、機器の点検・撤去にあたっては、真空型回収装置の使用を徹底し、大気中への排出を極力抑制しています。



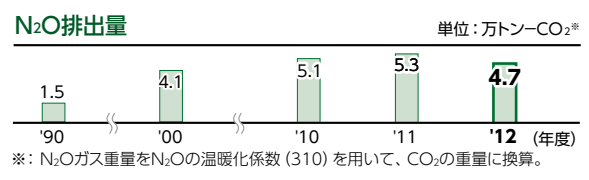
### SF<sub>6</sub>ガスの回収実績(2012年)

	取扱いガス量	回収ガス量	回収率
点検時	8.11(19万トン)	8.05(19万トン)	99%
撤去時	4.56(11万トン)	4.52(11万トン)	99%

※: SF<sub>6</sub>ガス重量をSF<sub>6</sub>の温暖化係数(23,900)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

### ● 一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)

主に火力発電所での燃料の燃焼に伴い発生するN<sub>2</sub>Oは、発電所の利用率により発生量が変動しますが、火力総合熱効率の向上等に取り組むことにより、排出抑制に努めています。



### ● メタン (CH<sub>4</sub>)

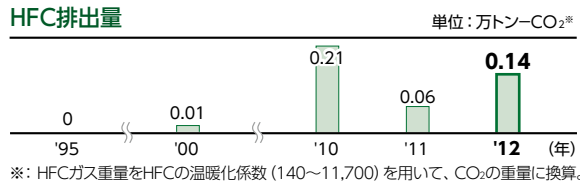
火力発電所での燃料の未燃焼分として排出されるCH<sub>4</sub>は、排ガス中の濃度が大気中の濃度以下であるため、実質的な排出はありません。

### ● ハイドロフルオロカーボン (HFC)

空調機器の冷媒等に使用されているHFCは、機器の設置・修理時の漏洩防止、回収・再利用を徹底しており、年ごとの点検・撤去日数による変動はあるものの排出量はごくわずかです。

なお、オゾン層の破壊につながるフロン類(規制対象フロン)を使用している冷凍機器等については、点検・撤去時のフロン回収を徹底するとともに、機器新設時や取替時には、規制対象フロン不使用機器の導入を進めています。

WEB 詳細は九州電力ホームページ 関連・詳細情報(P2参照) > **オゾン層の保護**



### ● パーフルオロカーボン (PFC)

PFCは一部の変圧器で冷媒及び絶縁体として使用されている例がありますが、当社での使用はありません。

用語集をご覧ください

- ステークホルダー
- 再生可能エネルギー
- コンバインド(サイクル)
- N<sub>2</sub>O (一酸化二窒素)
- SF<sub>6</sub> (六フッ化硫黄)
- 温暖化係数
- 熱効率
- CH<sub>4</sub> (メタン)
- HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- オゾン層
- フロン
- 規制対象フロン
- PFC (パーフルオロカーボン)